

厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)
「地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究」

総括研究報告書 (令和2-3年度)

研究代表者 今村 知明 (奈良県立医科大学 教授)

研究要旨

2025年の地域医療構想の実現に向けて、各都道府県の構想区域において、今後の医療提供体制についての協議が進んでいる。本研究班については、都道府県が地域医療構想(病床機能分化・連携等)を推進、管理していくためのあり方や技術的な助言を行うことを目的として平成30年度より3か年の計画で研究を行ってきた。令和2年度においては、最終年度であることから、医療計画については、中間見直しを推進するための技術的な助言、次期第8次医療計画策定に向けたタスクの洗い出しをすることを目的として実施した。研究班は、①医療政策の国内最前線の研究者を擁し、体系的なプロセス分析の手法を用いる ②DPC データ、NDB データ分析の実績を有する研究者を擁し、都道府県や二次医療圏別の医師偏在等について政策検討に資する分析を行う ③日本医療マネジメント学会、日本クリニカルパス学会等と十分な連携をとれる体制により、傘下の研究者・医療機関から効率的な事例収集を実施することが可能、という3点の特徴を有し、研究の実施にあたっては、大きく6つのグループに分担して円滑に推進した。

今年度においては、地域医療構想を推進(特に公立・公的病院の再編統合)するための参考となる分析や調査を行うことができ、今後各都道府県での医療計画、地域医療構想の推進に役立つものであると考えられる。また、各都道府県が地域医療構想を推進するために必要となる地域医療介護総合確保基金の有効な用途への反映されることが期待される。

本研究の成果は、各都道府県が策定する医療計画および地域医療構想の実務的な資料として機能することを目的に作成され、わが国の5疾病5事業の推進や評価および病床機能の分化・連携や病床の効率的な利用に資するものであると考えられる。

研究分担者

河原 和夫 (東京医科歯科大学教授)
佐藤 大介 (千葉大学特任准教授)
小林 大介 (神戸大学大学院特命准教授)
野田 龍也 (奈良県立医科大学准教授)
松田 晋哉 (産業医科大学教授)
藤森 研司 (東北大学教授)
伏見 清秀 (東京医科歯科大学大学院教授)
石川 ベンジャミン光一 (国際医療福祉大学大学院教授)
町田 二郎 (済生会熊本病院副院長)
副島 秀久 (熊本県済生会支部長)
瀬戸 僚馬 (東京医療保健大学教授)

小林 美亜 (和洋女子大学教授)
池田 俊也 (国際医療福祉大学教授)
赤羽 学 (国立保健医療科学院部長)
西岡 祐一 (奈良県立医科大学助教)

研究協力者

伊藤 達哉 (長野県健康福祉部)
田極 春美 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 研究員)
島崎 謙治 (政策研究大学院大学)
菅河 真紀子 (東京医科歯科大学大学院)
阪口 博政 (金沢大学)
小妻 幸男 (済生会熊本病院)

西岡 智美 (済生会熊本病院)
 谷田 理一郎 (谷田病院)
 上田 梨絵 (谷田病院)
 森崎 真美 (済生会熊本病院)
 堀田 春美 (済生会熊本病院)
 宮下 恵里 (済生会熊本病院)
 次橋 幸男 (奈良県立医科大学)
 長野 典子 (奈良県立医科大学)
 中西 康裕 (奈良県立医科大学／国立保健医療
 科学院)
 菅野 沙帆 (奈良県立医科大学)
 久保 慎一郎 (奈良県立医科大学)

A. 研究目的

2025 年の地域医療構想の実現に向けて、各都道府県の構想区域において、今後の医療提供体制についての協議が進んでいる。これまで本研究班については、厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業「病床機能の分化・連携や病床の効率的利用等のために必要となる実現可能な施策に関する研究（H27－医療－一般002）」を平成 27 年度から平成 29 年度までの 3 年間の研究を通じ、わが国における公衆衛生の専門家が一堂に会して研究を進めてきた。その成果については、第 7 次医療計画を都道府県が着実に策定するために厚生労働省が行う技術的助言（平成 29 年 3 月までに公表）のための医療計画の指標の検討・整理を行っただけでなく、病床機能報告データを使った急性期指標の開発、病床機能分化の全国的な事例集の作成といった形で研究班の成果を世の中に発信してきた。

当該研究は平成 30 年度以降も 3 か年研究として継続され、都道府県や医療機関に対して医療計画および地域医療構想の実現に向けた支援を実施している。令和 2 年度については、3 か年継続研究の最終年度であることから、医療計画については、中間見直しを推進するための技術的な助言、次期第八次医療計画策定に向けたタスクの洗い出しをすることを目的とする。地域医療構想については、都道府県が地域医療構想の実現に向けた

医療提供体制の議論や医療機関連携の検討に資するべく定量的なデータ分析や定性的な支援（マニュアルやツール作成等）を行うことを目的とする。

B. 研究方法

本研究班は、6 つの分担班に分けて研究を進め、班会議を通じて、研究の進捗状況の管理、調整を行いながら進めた。

研究の実施体制は図 1 の通りである。

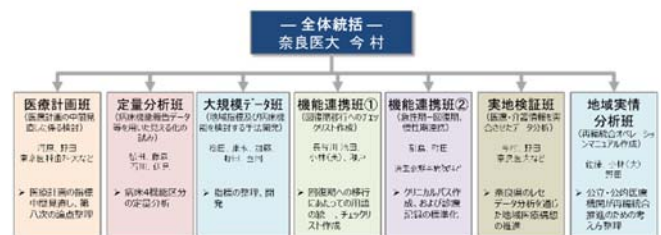


図 1 研究の実施体制

《医療計画グループ》

医療計画班

公開されている基金事業計画をデータベース化して第 6 次医療計画が実施された”平成 27 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの事業”と現行の第 7 次医療計画が実施されている”平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの事業(ただし、一部平成 31 年 4 月 1 日以降も実施されている複数年度にわたる事業も含む。)”の両群を比較し、論点を明らかにした。

基金の対象は 5 分野あるが、介護分野は除外し、医療分野が対象である「1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業」「2. 居宅等における医療の提供に関する事業」「4. 医療従事者の確保に関する事業」の 3 分野を分析した。

《病床機能グループ》

地域実情分析班

(1) 公立・公的医療機関の会計基準間のコンバージョンの可能性、(2) 公立病院の再編統合に係る地方財政措置、(3) ヒアリング調査の観点から整理を行った。

定量分析班

平成 30 年度病床機能報告の報告結果として厚生労働省ホームページで公開されている全国データを使用し、Microsoft Excel を使用して分析に適した形に整形後、Tableau Desktop を利用した可視化を行った。

機能連携班①

誤嚥性肺炎、大腿骨頸部骨折、脳卒中患者に本看護記録を適応し、地域内での看護ケアの質と安全管理を標準化することが可能かどうかを検証した。

機能連携班②

厚生労働省が行う標準化活動との整合性を図るため、高度医療情報普及推進事業を受託している MEDIS-DC や、関係する団体等との課題共有を実施した。また、回復期等移行チェックリストと同様のコンセプトで、RPA(Robotic Process Automation)の手法を用いた連携先との情報共有手法を開発中の病院にヒアリングして、実装に際しての課題把握を行った。

実地検証班

①医療・介護レセプトを連携させた奈良県 KDB データを用いて、以下の 2 通りの分析を行った。

1) 胃ろう等の人工栄養開始後の生存期間分析として、75 歳以上の後期高齢者のうち、入院後に経腸栄養（胃ろう、鼻腔栄養）又は植込み型ポートからの中心静脈栄養が開始された患者について、人工栄養開始後 730 日の生命予後を疾病タイプ毎に分析した。

2) 疾病発症が健康状態の終了に与える影響を検討するため、健康寿命と代理指標として、死亡又は新たに要介護 2 以上となった状態を健康状態の終了と定義した。その上で、入院を必要とした疾病（大腿骨近位部骨折、肺炎、脳血管疾患）の発症が、発症後 1 年以内の健康状態の終了に与える影響について、Standardized Mortality and

Disability rate (SMDR) を用いて分析した。

②奈良県 KDB 様データの医療レセプトデータを用いて 2014 年 4 月～2018 年 3 月の 4 年間に死亡した計 34,317 人（うち 100-104 歳 872 人、105-109 歳 78 人）を対象に死亡前 1 年間に発生した入院医療費及び入院外医療費を 30 日（1 ヶ月）ごとに性別、5 歳年齢階級別に算出し、後期高齢者医療制度加入者の死亡前医療費の分析を行った。

③レセプト電算用マスターと MEDIS の標準病名マスターにおける指定難病病名の収載状況について検証するため、各時点で最新の指定難病病名一覧を厚生労働省ホームページより、告示以外の難病名を難病情報センターより入手、標準病名マスターは「標準病名マスター作業班」サイトより最新の病名を検索し、収載状況を把握した。

（倫理面への配慮）

特になし

C. 研究結果

本年度研究によって以下の成果を得た。詳細については、それぞれ分担研究報告書を参照されたい。

《医療計画グループ》

医療計画班

「医療従事者の確保に関する事業」の平均予算額は、岩手県、青森県、高知県、富山県、長崎県、愛媛県、徳島県、熊本県、宮城県、山形県で大幅に増加していた。一方で、大阪府、岡山県、香川県、島根県、山梨県、鳥取県、兵庫県、長野県、京都府、奈良県、愛知県、静岡県で大きく減少していた。医療従事者の確保が難しい地方の県で増加して、大都市あるいはその周辺の都道府県で減少しているとは必ずしも言えなかった。

また、医療機関への委託が全体の約 1/4 を占めていることも、基金が単に補助金化している可能

性も示唆された。

《病床機能グループ》

地域実情分析班

(1)については、病院会計準則を基軸に、「社会福祉法人会計基準」「地方公営企業法」「日本赤十字社医療施設特別会計規則」を比較した結果、再編統合等の議論において、施設レベル(医業+その他の事業)では財政状況を把握していても、医業レベルでは分別が難しい可能性が示唆された。また、地方公営企業の他会計負担金・補助金等について、再編統合等で非地方公営企業化し政策医療を継続する場合の補助金等の担保は検討課題となることが想定された。

(2)については、地方財政措置が医療需要に応じた制度になっておらず、再編統合等のインセンティブが弱いことが示唆された。都道府県主体による地域医療構想の推進には、①実績や政策医療に応じた地方交付税措置への転換、②政策医療の実績に応じた財源措置、③病床の設置や指定後の定期的な見直し等に係る都道府県の権限の追加等が重要な政策課題と考えられた。

(3)については、公立公的病院の再編統合等の実際では、借入金の処理が重要な課題であることが明らかとなった。

定量分析班

平成30年度病床機能報告の報告結果として公開されているオープンデータを利用して、医師、看護師以外の職種の職員数について分析を行い、病院における職種別の勤務者数や構想区域における職種別の勤務者数の実態を明らかにした。また、24時間対応体制に必要な職員数の推計を行った。

機能連携班①

熊本県上益城郡にある谷田病院と済生会熊本病院の2施設間で医療連携が完結した患者で、誤嚥性肺炎3名、脳卒中(脳出血)1名、大腿骨近位部骨折4名である。基本アウトカムで不足する

ような病状の悪化症例はなかった。循環、呼吸、発熱、意識に関する重大なバリエーションはなかった。食事と排便に関するバリエーション発生頻度が高く、全入院期間を通じ万遍なく発生した。

機能連携班②

RPA手法は有効なものであり本研究班の提案に構造上の大きな問題がないことを確認するとともに、連携先と医療や介護の目的を共有する上でBOMが有効であること、BOMを活用する上でも既存マスターの項目追加も必要であること等の課題が明らかになった。

実地検証班

①1) 胃ろう等の人工栄養開始後の生存期間分析においては、後期高齢患者の約58-87%が胃ろう、鼻腔栄養、植込み型ポートからの中心静脈栄養の開始から730日以内に死亡していた。さらに、非悪性腫瘍群においては、鼻腔栄養又は中心静脈栄養の開始後に胃ろう造設が行われた患者(Secondary GS)群では、鼻腔栄養又は中心静脈栄養の開始後に胃ろう造設されなかった患者(NGT、PN)群よりも生命予後が良好であった。

2) 疾病発症が健康状態の終了に与える影響においては、高齢者における大腿骨近位部骨折、肺炎、脳血管疾患による入院は、基準集団と比較して1年以内の健康状態の終了に3倍以上の影響を与えていることが明らかになった。

②百寿者の死亡前医療費は非百寿者と比較して低い傾向にあり、特に105-109歳(超百寿者)において最も低いことが明らかとなった。また死亡前1年間における入院患者割合を年齢階級別に分析した結果、100-104歳では31.4%が、105-109歳では44.9%が死亡前1年間において1度も入院することなく死を迎えていることが明らかとなった。

③指定難病名は333件、告示以外の難病名は1259件であった。最初の調査以降、告示以外の

難病名が各マスターに3件追加されており、継続的なマスター整備が行われていることが明らかになった。一方で指定難病名が未登録の病名、各マスター間で病名の差異が存在した。

D. 考察

《医療計画グループ》

医療計画班

都道府県の施策・政策と予算化された事業が相伴って一体運用されることで地域医療構想を含む医療計画は初めて機能する。したがって、地域医療構想を含む医療計画の記載事項を実現するためには、施策や事業体系を構築しなければならない。それには多くの場合予算を組む必要がある。その柱になるものが「地域医療介護総合確保基金」である。

国の財政事情が厳しい折、基金の有効利用と効果的な事業の創造が必要である。それには、基金事業の評価指標の確立と効果の検証が今後不可欠となる。

《病床機能グループ》

地域実情分析班

本研究の限界点として、開設主体によって情報開示に関する指針が確立されていないため、開示された財務諸表に対する勘定科目の階層性に注意する必要がある。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、限られたインタビュー調査のもとで遂行されたことに留意が必要である。

定量分析班

薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師の圏域別・施設別職員数の可視化を行い、急性期入院医療の提供に必要とされる24時間対応体制の維持に必要な人員との関連の中での検討を行ったところ、職種別職員数の観点から24時間365日の診療体制を確保することができない病院が病床規模の小さい施設を中心として多数存在していること、および、地域医療構想区域の中には職種別職員数が少なく、他の圏域からの有期派遣や圏

域間をまたぐキャリアパスの確立が必要となることが示唆された。

今後は医師だけでなく他の医療従事者も含めて、地域における具体的な人員体制について検討し、その人員で地域の医療需要にどこまで対応できるかを真摯に検討していくことが重要であると考えられる。

機能連携班①

高齢者に対する積極的な栄養管理の指標の導入、認知力低下者や嚥下機能低下者の栄養管理方針、便秘に対する下剤使用などバリエーション発生時に行った処置行為結果に対する再評価方針の策定、等が本看護記録運用とセットになることが必要と認識された。専門性の経験が浅い看護師にとってはアウトカムと観察項目の組み合わせ設定に戸惑いが生じ、真のバリエーションではなくてもバリエーションと記録するなど、設定方針に改善の余地があることも明らかになった。本看護記録の運用結果を定期的に共有し学びを深める場と時間の設定が必要ということである。

機能連携班②

回復期等移行チェックリストにおけるRPA手法の現実性については概ね問題なしとの結論を得ることができた。回復期等移行チェックリストの実装に向けて今後取り組むべき課題として、既存資源を活用した標準化の必要性が明らかとなった。訪問看護事業所からはICT人材の不足が強く指摘されており、これは回復期の病院でも共通する課題であるため看過しがたい。前述の学術集会では医療情報技師等の専門人材を広域で活用するという意見があったが、こうした運用支援体制づくりも回復期等移行チェックリストの実装に向けた大きな課題である。

実地検証班

① 1) 胃ろう等の人工栄養開始後の生存期間分析

後期高齢患者の約58-87%がGS、NGT、PNによる人工栄養開始後730日以内に死亡していた。非悪性疾患群において、鼻腔栄養又は中心静脈栄

養の開始後に胃瘻造設が行われた患者は、鼻腔栄養又は中心静脈栄養が行われた患者よりも人工栄養開始から 2 年以内の生命予後が良好であった。後期高齢患者に対して人工栄養を開始する際には、その有効性と限界を考慮した治療選択が求められる。

2) 疾病発症が健康状態の終了に与える影響

高齢者における大腿骨近位部骨折、肺炎、脳血管疾患による入院は、基準集団と比較して 1 年以内の健康状態の終了に 3 倍以上の影響を与えていた。SMDR を疾病間で比較することによって、健康寿命の延長を目指した効率的な介入につなげられる可能性がある。

②百寿者及び超百寿者の死亡前医療費を 1 ヶ月ごとに性別、5 歳年齢階級別に明らかにした研究としては、本研究が初の知見となる。本研究結果は、これまで日本や欧米の百寿者を対象に行われたコホート研究（臨床研究）の結果を鑑みても、妥当であると解釈できる。

③指定難病名が未登録の病名、病名が一致しないもの、一文字異なるものが存在する。また同一病名が複数指定難病名に登録されていたり、代表的な病名ではなく別名の病名が登録されていたりする等、一部整理されていないものもあることが明らかになり、各関係団体が連携し、その差異を無くすような仕組みを構築することが望まれる。

E. 結論

本研究の成果は、わが国の地域医療構想（病床機能分化・連携）および医療計画（5 疾病 5 事業）の進捗管理にあたって有用なものであると考えられる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Yuichi Nishioka, Sadanori Okada, Tatsuya

Noda, Tomoya Myojin, Shinichiro Kubo, Shosuke Ohtera, Genta Kato, Tomohiro Kuroda, Hitoshi Ishii, Tomoaki Imamura. Absolute risk of acute coronary syndrome after severe hypoglycemia: A population - based 2 - year cohort study using the National Database in Japan. *Journal of Diabetes Investigation*. 2020 Mar; 11(2): 426-434.

2. Nakatoh I, Fujimori K, Tamaki J, Okimoto N, Ogawa S, Iki M. Insufficient increase in bone mineral density testing rates and pharmacotherapy after hip fracture in Japan. *J Bone Miner Metab*. 28(4) 589-596. 2020.07

3. Seitaro Suzuki, Tatsuya Noda, Yuichi Nishioka, Tomoaki Imamura, Hideyuki Kamijo, and Naoki Sugihara. Evaluation of tooth loss among patients with diabetes mellitus and upper respiratory inflammation using the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan. *International Dental Journal*. 2020 Aug; 70 (4) : 308-315

4. 久保慎一郎、野田龍也、西岡祐一、明神大也、東野恒之、今村知明. レセプト情報・特定検診等情報データベース(NDB)における患者突合の精度向上に関する手法開発. *医療情報学 論文集*. 2020 Nov;40(Suppl.): 765-769.

5. 菅野沙帆、久保慎一郎、西岡祐一、野田龍也、今村知明. レセプト電算用マスターと MEDIS の標準病名マスターにおける指定難病病名の収載状況について. *医療情報学 論文集*. 2020 Nov;40(Suppl.): 589-591.

6. 西岡祐一、野田龍也、今村知明. 奈良県における後期高齢者医療費と保険料水準の理論推計. *厚生指標*. 2020 Dec;67(15): 26-30.

7. Yukio Tsugihashi, Manabu Akahane, Yasuhiro Nakanishi, Tomoya Myojin, Shinichiro Kubo, Yuichi Nishioka, Tatsuya Noda, Shuichiro Hayashi, Shiori Furihata, Tsuneyuki Higashino, Tomoaki Imamura. Long-term prognosis of enteral feeding and parenteral nutrition in a population aged 75 years and older: A population-based cohort study. *BMC Geriatrics*. 2021 Jan; 21: 80
8. 桜澤邦男、藤森研司. SOFA スコアの不明登録及び活用に関する評価. ～大規模 DPC データを用いた ICU への緊急入院患者の分析～. *日本診療情報管理学会誌*. 32(4) 22-30.2021.01
9. Seitaro Suzuki, Tatsuya Noda, Yuichi Nishioka, Tomoya Myojin, Shinichiro Kubo, Tomoaki Imamura, Hideyuki Kamijo, Naoki Sugihara. Evaluation of Public Health Expenditure by Number of Teeth among Outpatients with Diabetes Mellitus. *The Bulletin of Tokyo Dental College*. 2021 Feb; 62(1): 55-60.
10. 久保慎一郎、野田龍也、西岡祐一、明神大也、中西康裕、降旗志おり、東野恒之、今村知明. レセプト情報・特定検診等情報データベース (NDB)を用いた死亡アウトカムの追跡. *医療情報学*. 2021 Mar; 40(6): 319-335.
11. Koshiro Kanaoka, Tsunenari Soeda, Satoshi Terasaki, Yuichi Nishioka, Tomoya Myojin, Shinichiro Kubo, Katsuki Okada, Tatsuya Noda, Makoto Watanabe, Rika Kawakami, Yasushi Sakata, Tomoaki Imamura, Yoshihiko Saito. Current Status and Effect of Outpatient Cardiac Rehabilitation After Percutaneous Coronary Intervention in Japan. *Circulation Reports*. 2021 Mar; 3 (3) : 121-130.
12. Yuichi Nishioka, Tatsuya Noda, Sadanori Okada, Tomoya Myojin, Shinichiro Kubo, Tsuneyuki Higashino, Hitoshi Ishii, Tomoaki Imamura. Incidence and Seasonality of Type 1 Diabetes: A Population-Based 3-year Cohort Study Using the National Database in Japan. *BMJ Open Diabetes Research & Care*. 2020; 8:e001262.
13. Shingo Yoshihara, Hayato Yamana, Manabu Akahane, Miwa Kishimoto, Yuichi Nishioka, Tatsuya Noda, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Kei Kasahara, and Tomoaki Imamura. Association between Prophylactic Antibiotic Use for Transarterial Chemoembolization and Occurrence of Liver Abscess: A Retrospective Cohort Study. *Clinical Microbiology and Infection*. 10.1016/j.cmi.2021.01.014
14. Yuichi Nishioka, Tatsuya Noda, Sadanori Okada, Tomoya Myojin, Shinichiro Kubo, Tsuneyuki Higashino, Hiroki Nakajima, Takehiro Sugiyama, Hitoshi Ishii, Tomoaki Imamura. Association between influenza and the incidence rate of new-onset type 1 diabetes in Japan. *Journal of Diabetes Investigation*. Oct; 12(10): 1797-1804.2021
15. Yasuhiro Nakanishi, Yukio Tsugihashi, Manabu Akahane, Tatsuya Noda, Yuichi Nishioka, Tomoya Myojin, Shinichiro Kubo, Tsuneyuki Higashino, Naoko Okuda, Jean-Marie Robine, Tomoaki Imamura. Comparison of Japanese Centenarians' and Noncentenarians' Medical Expenditures in the Last Year of Life. *JAMA Network Open*. 2021 Nov; 4(11): e2131884.
16. 菅野沙帆、久保慎一郎、西岡祐一、明神大也、野田龍也、今村知明. レセプト電算用マスターと MEDIS 標準病名マスターにおける指定難病名の収載状況. *医療情報学*. 2021 Nov;41(4): 163-168.

17. 今村知明. 新型コロナウイルスを受けての地域医療の課題と感染症医療提供体制構築私案. 特集“感染症医療”の抜本改革. 月刊 保険診療. 2021 Nov;76(11): 38-41.
 18. Yuichi Nishioka, Saki Takeshita, Shinichiro Kubo, Tomoya Myojin, Tatsuya Noda, Sadanori Okada, Hitoshi Ishii, Tomoaki Imamura, Yutaka Takahashi. Appropriate definition of diabetes using an administrative database: a cross-sectional cohort validation study. *Journal of Diabetes Investigation*. Feb;13(2) 249-255.2022
 19. Hirohito Kuwata, Yuichi Nishioka, Tatsuya Noda, Shinichiro Kubo, Tomoya Myojin, Tsuneyuki Higashino, Yutaka Takahashi, Hitoshi Ishii, Tomoaki Imamura. Association between dipeptidyl peptidase-4 inhibitors and increased risk for bullous pemphigoid within 3 months from first use: A 5-year population-based cohort study using the Japanese National Database. *Journal of Diabetes Investigation*. Mar;13(3) 460-467.2022
2. 学会発表
1. 2020年08月04日～2020年08月06日
(WEB、東京都) 第62回日本老年医学会学術集会 百寿者の人口動態と大規模レセプトデータを用いた百寿者研究の今後 中西 康裕、次橋 幸男、赤羽 学、野田 龍也、明神 大也、久保 慎一郎、西岡 祐一、東野 恒之、今村 知明
 2. 2020年08月09日～2020年08月12日
(石川県、立音楽堂) 第40回日本脳神経外科コンgres総会 人口構成の変化へ対応するための医療界の動向と課題～地域医療構想や医療計画、地域包括ケアシステム～ 今村知明.
 3. 2020年10月02日～2020年10月04日
(WEB九州大学) 第58回日本医療・病院管理学会学術総会 講演・特別企画1「医療情報活用によるこれからの医療」 今村知明.
 4. 2020年10月05日～2020年10月16日
(WEB) 第63回日本糖尿病学会年次学術集会 レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)の臨床研究:死亡ロジックを用いた死亡者の糖尿病/非糖尿病での比較 久保慎一郎、西岡祐一、明神大也、野田龍也、東野恒之、玉城由子、小泉実幸、中島拓紀、紙谷史夏、栗田博仁、毛利貴子、岡田定規、赤井靖宏、石井均、今村知明.
 5. 2020年10月05日～2020年10月16日
(WEB) 第63回日本糖尿病学会年次学術集会 レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)を用いた自己対照ケースシリーズ研究:インフルエンザ後の1型糖尿病発生率 西岡祐一、岡田定規、野田龍也、久保慎一郎、明神大也、東野恒之、玉城由子、小泉実幸、中島拓紀、紙谷史夏、栗田博仁、毛利貴子、赤井靖宏、今村知明、石井均.
 6. 2020年10月05日～2020年10月16日
(WEB) 第63回日本糖尿病学会年次学術集会 レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)を用いた臨床研究:糖尿病患者におけるβ遮断薬の投与と重症低血糖 岡田定規、西岡祐一、久保慎一郎、明神大也、野田龍也、東野恒之、玉城由子、小泉実幸、中島拓紀、紙谷史夏、栗田博仁、毛利貴子、赤井靖宏、今村知明、石井均.
 7. 2020年10月05日～2020年10月16日
(WEB) 第63回日本糖尿病学会年次学術集会 レセプト情報・特定健診等情報データベースを(NDB)を用いた臨床研究:メトホルミンと他の血糖降下薬の変形性関節症手術施行率 玉城由子、西岡祐一、久保慎一郎、明神大也、野田龍也、東

野恒之、小泉実幸、中島拓紀、紙谷史夏、
栗田博仁、毛利貴子、岡田定規、赤井靖
宏、今村知明、石井均。

8. 2020年10月05日～2020年10月16日
（WEB） 第63回日本糖尿病学会年
次学術集会 レセプト情報・特定健診等情
報データベース（NDB）を用いた臨床研
究：重症低血糖後の硝子体手術施行率 野
田龍也、西岡祐一、久保慎一郎、明神大
也、東野恒之、玉城由子、小泉実幸、中島
拓紀、紙谷史夏、栗田博仁、毛利貴子、岡
田定規、赤井靖宏、石井均、今村知明。

9. 2020年10月05日～2020年10月16日
（WEB） 第63回日本糖尿病学会年
次学術集会 心血管疾患の1次予防に対す
るメトホルミン、スルホニル尿素薬及び
DPP4 阻害薬治療効果の比較：人口ベース
のコホート研究 中島拓紀、西岡祐一、久
保慎一郎、明神大也、野田龍也、東野恒
之、玉城由子、小泉実幸、紙谷史夏、栗田
博仁、毛利貴子、岡田定規、赤井靖宏、今
村知明、石井均。

10. 2020年10月05日～2020年10月16日
（WEB） 第63回日本糖尿病学会年
次学術集会 レセプト情報・特定健診等情
報データベース(NDB)を用いた臨床研究：
日本全体の下肢切断、糖尿病患者のリスク
紙谷史夏、西岡祐一、久保慎一郎、明神大
也、野田龍也、東野恒之、玉城由子、小泉
実幸、中島拓紀、栗田博仁、毛利貴子、岡
田定規、赤井靖宏、今村知明、石井均。

11. 2020年10月20日～2020年10月22日
（WEB京都） 第79回日本公衆衛生
学会総会 KDBを用いた奈良県における
後期高齢者医療費と保険料水準の理論推計
今村知明、西岡祐一、野田龍也。

12. 2020年10月20日～2020年10月22日
（WEB京都） 第79回日本公衆衛生
学会総会 医療・介護レセプトデータを用
いた人工栄養開始後の療養場所に関する追

跡調査 次橋幸男、赤羽 学、明神大也、中
西康裕、久保慎一郎、西岡祐一、野田龍也、
今村知明。

13. 2020年10月20日～2020年10月22日
（WEB京都） 第79回日本公衆衛生
学会総会 透析患者における骨折発症リス
ク：KDBを用いた検討 菅野沙帆、久保慎
一郎、赤羽学、次橋幸男、今村知明。

14. 2020年10月20日～2020年10月22日
（WEB京都） 第79回日本公衆衛生
学会総会 糖尿病/非糖尿病での死亡時年齢
と健康寿命の比較 新居田泰広、西岡祐
一、次橋幸男、久保慎一郎、明神大也、野
田龍也、今村知明。

15. 2020年10月20日～2020年10月22日
（WEB京都） 第79回日本公衆衛生
学会総会 大規模レセプトデータを用いた
百寿者及び非百寿者の死亡前医療費の比較
中西康裕、次橋幸男、赤羽学、野田龍也、
明神大也、久保慎一郎、西岡祐一、今村 知
明。

16. 2020年10月20日～2020年10月20日
（WEB京都） 第79回日本公衆衛生
学会総会 レセプト情報・特定健診等情報
データベース（NDB）：HIV/AIDSの現在
通院患者数の的確な把握 野田龍也、今村
知明、明神大也、西岡祐一、久保慎一郎。

17. 2020年10月20日～2020年10月22日
（WEB京都） 第79回日本公衆衛生
学会総会 NDBを用いた難病患者(潰瘍性
大腸炎、多発性硬化症、視神経脊髄炎)にお
ける患者数の推計 久保慎一郎、野田龍
也、西岡祐一 明神大也、今村知明。

18. 2020年10月20日～2020年10月22日
（WEB京都） 第79回日本公衆衛生
学会総会 特定健康診査の糖尿病薬処方
に関する質問項目のバリデーション研究 西
岡祐一、野田龍也、久保慎一郎、明神大
也、今村知明。

19. 2020年10月20日～2020年10月22日

- (WEB京都) 第79回日本公衆衛生学会総会 奈良県広域消防組合におけるCPA 傷病者の家族等から口頭でDNARを伝えられた場合の対応について 建部 壮、吉井 克昌、西岡 祐一、今村 知明 .
20. 2020年11月14日 第10回日本在宅看護学会学術集会 交流集会④ 瀬戸僚馬、小林美亜、佐野けさ美、光城元博、岡峯栄子、大竹尊典：病院、施設、在宅を繋ぐ情報共有基盤の構築～地域包括ケアシステムにおける標準的なデータセットの構築に向けて～
21. 2020年11月18日～2020年11月22日 (静岡県、アクトシティ浜松/WEB) 第40回医療情報学連合大会(第21回日本医療情報学会学術大会) レセプト電算用マスターとMEDISの標準病名マスターにおける指定難病病名の収載状況について 菅野沙帆、久保慎一郎、西岡祐一、野田龍也、今村知明.
22. 2020年11月18日～2020年11月22日 (静岡県、アクトシティ浜松/WEB) 第40回医療情報学連合大会(第21回日本医療情報学会学術大会) レセプト情報・特定健診等データベース(NDB)における患者突合の精度向上に関する手法開発 久保慎一郎、野田龍也、西岡祐一、明神大也、東野恒之、今村知明.
23. 2020年11月20日(神戸)日本リハビリテーション医学会秋季学術発表会. 次橋幸男, 赤羽学. 医療・介護レセプトデータを用いた疾病発症が健康寿命に与える影響の比較.
24. 2021年03月26日～2021年03月28日 (神奈川県、パシフィコ横浜/WEB) 第85回日本循環器学会学術総会 リアルワールド・データの臨床活用への現状と課題 今村知明.
25. 2021年04月22日～2021年04月24日 (WEB) 第94回日本内分泌学会学術総会 レセプトビッグデータを用いた糖尿病診断アルゴリズムの構築 西岡祐一、野田龍也、久保慎一郎、明神大也、中島拓紀、毛利貴子、栗田博仁、岡田定規、樽松由佳子、今村知明、高橋裕.
26. 2021年05月20日～2021年05月22日 (WEB) 第64回日本糖尿病学会年次学術集会 『データベース医学』が切り拓く新しい糖尿病学：大規模レセプトデータベースを用いた臨床疫学研究から見えること 西岡祐一、岡田定規、明神大也、久保慎一郎、竹下沙希、菅野沙帆、中西康裕、次橋幸男、降籬志おり、東野恒之、金岡幸嗣朗、池菜美香、新居田泰大、玉城由子、小泉実幸、紙谷史夏、中島拓紀、毛利貴子、栗田博仁、樽松由佳子、赤井靖宏、斎藤能彦、石井均、野田龍也、高橋裕、今村知明.
27. 2021年05月20日～2021年05月22日 (WEB) 第64回日本糖尿病学会年次学術集会 医療保険・介護保険連結ビッグデータ解析によって浮き彫りになる高齢2型糖尿病患者治療の実態と課題 新居田泰大、西岡祐一、中島拓紀、毛利貴子、栗田博仁、岡田定規、樽松由佳子、久保慎一郎、明神大也、野田龍也、金岡幸嗣朗、斎藤能彦、石井均、今村知明、高橋裕.
28. 2021年05月20日～2021年05月22日 (WEB) 第64回日本糖尿病学会年次学術集会 健康診断でHbA1c高値指摘後の医療機関未受診は早期死亡率上昇と関連する：レセプトビッグデータを用いた観察研究 西岡祐一、野田龍也、久保慎一郎、明神大也、玉城由子、中島拓紀、毛利貴子、栗田博仁、樽松由佳子、岡田定規、金岡幸嗣朗、斎藤能彦、石井均、今村知明、高橋裕.
29. 2021年06月10日～2021年06月12日 (鳥取県、米子コンベンションセンター/WEB) 第25回日本医療情報学会春季学術大会 レセプト電算用マスターとMEDISの標準病名マスターにおける指定

難病病名の収載状況について 菅野沙帆、久保慎一郎、西岡祐一、野田龍也、今村知明.

30. 2021年06月29日～(WEB) International Centenarian Consortium 2021 annual meeting Analysis of supercentenarians' medical expenditures for one year before death: a population-based retrospective cohort study Yasuhiro Nakaniishi, Yuichi Nishioka, Yukio Tsugihashi, Manabu Akahane, Tatsuya Noda, Tomoya Myojin, Shinichiro Kubo, Tsuneyuki Higashino, Jean-Marie Robine, Koshiro Kanaoka, Tomohiro Kakinuma, Tomoaki Imamura.
31. 2021年07月09日～2021年07月10日 (大阪府、あべのハルカス/WEB) 第42回日本循環制御医学会総会・学術集会 循環器疾患を取り巻く医療政策の変化と今後の動向 今村知明.
32. 2021年09月02日～2021年09月03日 (大阪府、ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター/WEB) 第34回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会 政府の医療施策とコロナ禍を受けての今後の動向 今村知明.
33. 2021年10月29日～2021年10月31日 (WEB) 第59回日本医療・病院管理学会学術総会 地域医療構想とコロナ禍を受けての今後の動向 今村知明.
34. 2021年10月30日～(大阪府、ホテルエルセラーン大阪) 日本医学放射線学会 第329回関西地方会(第401回レントゲンイベント) 医師をめぐる医療政策や「働き方改革」の現状と課題 ―基本的事項から最新の話まで― 今村知明.
35. 2021年11月04日～2021年11月05日 (奈良県、コンベンションセンター、奈良100年会館) 第59回全国自治体病院学会医療や臨床工学技士を取り巻く情勢の現状と課題 今村知明.
36. 2021年11月12日～2021年11月13日 (香川県、かがわ国際会議場) 第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 医療費をとりまく社会情勢と診療報酬改定のしくみ 今村知明.
37. 2021年11月18日～2021年11月21日 (愛知県、名古屋国際会議場/WEB) 第41回医療情報学連合大会(第22回日本医療情報学会学術大会) NDBを用いた癌の部位別SMRの算出の検討 菅野沙帆、野田龍也、西岡祐一、久保慎一郎、明神大也、今村知明.
38. 2021年11月18日～2021年11月21日 (愛知県、名古屋国際会議場/WEB) 第41回医療情報学連合大会(第22回日本医療情報学会学術大会) レセプト情報における病名・病名開始日を用いた名寄せロジックの開発 竹下沙希、西岡祐一、久保慎一郎、明神大也、野田龍也、今村知明.
39. 2021年11月18日～2021年11月21日 (愛知県、名古屋国際会議場/WEB) 第41回医療情報学連合大会(第22回日本医療情報学会学術大会) 原死因決定プロセスの効率化に資する機械学習による原死因コード変更予測 大井川仁美、今井健、香川璃奈、明神大也、今村知明.
40. 2021年12月21日～2021年12月23日 (東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第80回日本公衆衛生学会総会 奈良県のKDB7年間データを用いた時系列分析と医療内容の変化 今村知明、西岡祐一、野田龍也.
41. 2021年12月21日～2021年12月23日 (東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第80回日本公衆衛生学会総会 医療・介護保険レセプトデータを用いた要介護状態の契機となった入院主病名及び手術名の分析 次橋幸男、赤羽学、中西康裕、明神大也、久保慎一郎、西

岡祐一、野田龍也、今村知明.

42. 2021年12月21日～2021年12月23日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第80回日本公衆衛生学会総会 医療・介護連結解析からわかる高齢2型糖尿病患者治療の実態と課題 新居田 泰大、西岡 祐一、明神 大也、久保慎一郎、次橋 幸男、野田 龍也、今村 知明.
43. 2021年12月21日～2021年12月23日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第80回日本公衆衛生学会総会 透析患者における骨折発症の標準化罹患比の算出: KDBを用いた検討 菅野沙帆、久保慎一郎、西岡祐一、野田龍也、今村知明.
44. 2021年12月21日～2021年12月23日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第80回日本公衆衛生学会総会 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)による透析導入リスクについて 竹下沙希、西岡祐一、明神大也、久保慎一郎、野田龍也、今村知明.
45. 2021年12月21日～2021年12月23日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第80回日本公衆衛生学会総会 ベンゾジアゼピン系薬の処方有無と死亡率の関連: 高次元傾向スコアを用いた観察研究 西岡祐一、竹下沙希、明神大也、久保慎一郎、野田龍也、今村知明.
46. 2021年12月21日～2021年12月23日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第80回日本公衆衛生学会総会 心室中隔欠損症に対する小児心臓カテーテル検査における麻酔方法と重症合併症の関連 小川裕貴、山名隼人、野田龍也、岸本美和、吉原真吾、松居宏樹、康永秀生、今村知明.
47. 2021年12月21日～2021年12月23日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊

藤国際学術センター) 第80回日本公衆衛生学会総会 心肺停止者に対する一次救命処置に関する都道府県人口密度とバイスタンダー種別との関係 建部壮、井桁龍平、大高俊一、千葉拓世、志賀隆、野田龍也、今村知明.

48. 2021年12月21日～2021年12月23日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第80回日本公衆衛生学会総会 後期高齢者の口腔環境と死亡割合と医療費に与える影響: 奈良県をモデルに 辻本雄大、岡本左和子、西岡祐一、今村知明.
49. 2021年12月21日～2021年12月23日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第80回日本公衆衛生学会総会 緊急事態宣言下における医療機関受診に関する意識調査: WEB質問紙調査による横断研究 中西康裕、松本伸哉、柿沼倫弘、西岡 祐一、次橋幸男、今村知明、赤羽 学.
50. 2021年12月21日～2021年12月23日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第80回日本公衆衛生学会総会 奈良県における自宅死の現状について 平石達郎、岡本左和子、今村知明.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし